

令和7年度第2回森町地域公共交通会議 議事録

日 時 令和7年11月14日(金) 14:30～

場 所 森町役場 2階 会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

- ・長瀬副町長より挨拶。

※森町地域公共交通会議設置要綱（以下、要綱という。）第5条第2項により、会長は森町副町長が務める。

3. 報告事項

① 利用状況集計報告について

- ・ 別途資料により説明

【深川委員】 新しく導入された車両を拝見したが、マイクロバスがほぼ満席の状況であった。

非常に喜ばしいことと認識しており、利用者数が増え続けるような取組等が実施できると非常に良いと思っている。

【事 務 局】 皆様とのご協議の甲斐もあつての結果と認識している。今後も安定的な運行に向けて、取り組んで行く。

4. 議 事

① 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

- ・ 別途資料により説明

【伊藤委員】 運行当初、色々心配はあったが、数値的にも定着したようで非常に安心している。自身も免許返納を控えているところであるが、今後は同じような方々が増えていくことが想定される。

砂原地区の高齢者サロンで、「もりっくる」への非常に良い評価をいただいている。

【事 務 局】 人口減少下でも、免許返納される方は、一定数いらっしゃるため、利用しやすい交通サービスとして継続した運行を心がける。

また、車両が大きくなったことにより、交流の場としても機能するようになったと認識している。

【深川委員】 100円ショップの閉店により、運行経路の変更は発生するか。

【事 務 局】 100円ショップの周辺の住民の方が利用している状況であるため、運行経路の変更は想定していない。

【深川委員】 一定程度、運行時間に合わせて動いているが、バス停まで歩くことが難

しい方がいることや増便の要望は挙がっている。

【伊藤委員】 2往復目はやはり利用が少ない状況であるため、改善の余地はあるかもしれない。

【事務局】 復路便は、往路便の7割程度しか利用しておらず、他の交通手段を活用されている状況であることが推察される。

また、2往復目の利用は少ないものの、一定の利用の伸びは確認されるため、今後の運行を注視していきたい。

なお、現状の経費としては、濁川線、駒ヶ岳・赤井川線は、900～1,000万程度を要しており、収入は70万程度であり、収支率は10%弱といったところである。今後、運営していくにあたって、約90%分を負担し続けることは大変であるので、国の補助金を導入し、経費から400万程度は減額できているところである。

一方で、砂原線も国の補助金を活用したいところであるが、すでに上限に達している状況である。

【館下委員】 この場で、ご紹介できるメニューがあれば良いが、現時点ではないことに加え、昨年度よりも補助上限が下がっている状況である。

地域で検討し、地域からも要望が挙がっている状況であるため、国から提案できるメニューがないか、再度確認し、事務局にご提案させていただく。

【深川委員】 フォレストで買い物をして、タクシーを利用する方がおり、運転手が手伝っている光景を拝見した。

「もりっくる」でも運転手が手を貸すことは可能であるか、もし可能なのであれば、より利用しやすい地域交通の運行に向け、ご検討いただきたい。

【館下委員】 法的な縛りはないが、乗車するまでは、強いて言えば乗客ではないため、乗車自体は自力でお願いすることとなる。

一方で、介助の資格等をお持ちの運転手であれば、手伝える余地はあると思うが、運転手のサービスの質に求められるハードルが上がるため、お手伝いすることは難しいと考えられる。

【伊藤委員】 乗車時の事故、怪我等の責任の所在はどうなるか。

【館下委員】 状況によるため、一概に責任の所在がどこであるか、断定をすることは難しいと思われる。

【深川委員】 新しい車両にステップがあることは非常に良いと思うが、バランスを崩して転倒する恐れがある。

【事務局】 先程の意見交換にもあったように、運転手が直接的に手を貸すことは難しいため、お声がけをするなどの対応としたい。

【大岩委員】 前回会議で意見のあった砂原地区に居住する外国人労働者の方の、休日時の足の確保は、どのように検討されているか。

【事務局】 運行内容の拡充と捉えているが、現時点の経費が限度の側面もあるため、現段階では、土日祝日の運行拡充は検討していない。

【大岩委員】 交通サービスの向上は、まちの魅力向上と考えられるため、財政面でも地域住民、庁舎内ともども、ご理解をいただくことが有効と思う。

【事務局】 財政に限りがあるところではあるが、広い視点で交通サービスを捉え、今後も交通サービスの充実検討を図っていく。

- ・ 本会議をもって、当該議案について承認

②森町地域公共交通バス砂原線運行用車両の変更について

- ・ 別途資料により説明

【館下委員】 車椅子の方からのニーズはあるか。

【事務局】 事務局に声は聞こえていないところであり、福祉タクシー等で移動されていると推察している。

【中澤委員】 乗務員2名体制は、今後も継続していくつもりか。

【事務局】 運転専属と運賃管理の2名体制であるため、一定期間はそのまま進める予定である。

【中澤委員】 新たな車両でも乗車人数がオーバーした場合には、今まで同様、増車される予定か。

【事務局】 ご認識の通りで、増車することとしている。

- ・ 本会議をもって、当該議案について承認

③NPO法人まちづくり支援センター 代表理事 為国 孝敏 氏 総括

- ・ 森町は利用者数が一定数確保されているので、細かなニーズにどう対応していくかが重要なフェーズとなってきた。
- ・ 一方で、細かなニーズに対応するためには、財政面が関わってくるため、お金をかけてもニーズに応えるのか、一定の財政の中でニーズに応えていくのか、を判断していくことが重要である。
- ・ 森町単体の地域交通だけでなく、地域幹線系統への波及など、相乗効果を見据えて、進めていくことも重要である。
- ・ 人口規模が小さな町でも、技能実習生の足の確保が、地域交通への有効な手立てであることは立証されているが、森町の規模となると、乗りこぼし等が発生しないか等も検討する必要がある。
- ・ 今後、運行していく中で、ニーズにどこまで対応していくかは協議会の場でも協議が必要なため、まちの状況を皆様にぜひ教えていただきたい。

5. その他

【事務局】 次回の会議は、2月中旬を予定している。

6. 閉会